

「腫瘍分子生物学セミナー」を開催

2013年11月14日

11月14日（木）にがん進展制御研究所棟4階会議室において、ハーバード大学医学部ボストン小児病院の山形一行先生を迎え、「TET2遺伝子の白血病で高頻度に変異の起こるCys-rich regionはK36メチル化を認識するドメインである」と題して、がん進展制御研究所腫瘍分子生物学セミナーを開催しました。

セミナーでは、TET2の高変異ドメインの機能解明と白血病発症の関係に関する最新の知見とハーバード大学におけるポストドクの現状に関して講演して頂きました。

セミナーには、所内外の研究者並びに大学院生ら30数名が参加し、とても活発な質疑応答や意見交換が行われました。



腫瘍分子生物学セミナー

「TET2 遺伝子の白血病で高頻度に変異の起こる Cys-rich region
は K36 メチル化を認識するドメインである」

The epigenetic role of TET2 proteins in the development of
myeloid leukemia

山形一行 先生

Kazuyuki Yamagata Ph. D.

Boston Children's Hospital & Harvard Medical School

2013年11月14日(木)

がん進展制御研究所 4階会議室 17:30 ~ 18:30

山形先生は、筑波大学深水昭吉先生研究室においてアルギニンメチル化によるAkt基質の機能制御（特に転写因子FOXO）のご研究をなさった後(1,2,3)、ヒストンリジン脱メチル化酵素LSD1の発見等で有名なハーバード大医学部チルドレンズホスピタルのYang Shi先生の研究室でポスドクをなさっています。

造血器腫瘍において変異が発見され話題になっているDNAヒドロキシメチル化酵素ファミリーTET2遺伝子(4)の高変異ドメインの機能を明らかにされ、白血病発症のエピジェネティクス機序に迫る発見をされました（投稿準備中）。

今回の一時帰国にあわせ、当研究室にて最新の成果をお話いただくことになりました。がん研内には興味をお持ちの先生がいらっしゃると思いますので、公開セミナーといたします。

1. Yamagata, K. et al., Mol. Cell 32, 221-231 (2008)
2. Takahashi, Y. et al., Cell Metab. 13, 505-516 (2011)
3. Sakamaki, J. et al., Proc Natl Acad Sci U S A. 15, 6085-90 (2011)
4. Langemeijer, S.M. et al., Nat Genet. 41, 838-842 (2009)

連絡先：腫瘍分子生物学 高橋 智聡

TEL：076-264-6750

E-mail：chtakaha@staff.kanazawa-u.ac.jp